

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願ひ

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	術中脳波を用いたてんかん手術と長期的なてんかん発作予後の後方視的検討
研究責任者	代表;脳神経外科 山添知宏 分担研究者;てんかん科・脳神経外科 山本貴道 脳神経外科 川路博史
研究実施体制	当院脳神経外科もしくはてんかんセンターで難治性てんかんに対して手術加療を受けられた方で術中脳波の所見と長期的なてんかん発作の予後を調査する。
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2021年 8月
対象者	2006年4月から2017年12月までの間に聖隷浜松病院脳神経外科もしくはてんかんセンターで難治性てんかんに対して、手術加療を行ったてんかんの患者。
研究の意義・目的	術中脳波検査を用いた手術加療に関しては、明らかなエビデンスはなく、当院での手術成績を調査します。
研究の方法	【方法】対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行う。 術前検査の所見、頭蓋内電極留置術の有無とその所見、術中脳波の所見(切除術前後の変化等)と術後てんかん発作の予後 【対象患者】2006年4月から2017年12月までの間に聖隷浜松病院脳神経外科もしくはてんかんセンターで難治性てんかんに対して手術加療を受けられた患者。 【選択基準】2.5%セボフルレン麻酔下で術中脳波検査を行い、手術加療を行った局在関連てんかんの患者 【除外基準】術中脳波検査が上記麻酔法と異なる状況で記録された患者、局在関連でない患者 【予定症例数】42例 【症例数の設定根拠】当院で対象患者となる見込み症例数を設定した。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 脳神経外科 (氏名)山添 知宏 TEL:053-474-2222(代表) 脳神経外科外来 9:00~17:00 平日